



今年も暑い夏が続きましたね。8月、どんぐりの園庭は水遊びではしゃぐ子ども達の声で、いつもよりにぎやかでした(o^-^o)

まだ残暑はありますが、朝夕は涼しくなってきたので、気温の変化で体調を崩さないようご注意くださいね。

*****9月9日は救急の日*****

ケガに繋がらない備えをしましょう

家庭内で起こりやすい事故として、誤飲があります。たばこの吸い殻・電池・薬等、危険なものは、子どもの手の届かない場所に保管することが基本です。また、お風呂での溺水も多くバスタブに水をためたままにしない、浴室には鍵をかけるなどの対策が必要です。けして一人で浴室に入れないようお願いいたします。

子どもが今、どのくらいのことが出来るのかをよく知らないことから事故はおこります。ですから、自分の子どもの発育を知ることが最も大切です。子どもは歩き始めると、走り出し、よじ登ったり、跳んだりといった間に成長し、いろいろなものに興味を持つようになります。

成長の著しい乳幼児期は一生のうちで最もケガの多い時期と言われています。しかしこの時期はまだ、自分で身を守ることはできないため、大人はいつも注意を払い、子どもを事故から守りましょう。



😊目をたいせつに😊

7月、8月、くま組・きつね組さんで視力測定を行いました。その際、看護師から子ども達に目を大切にすることについてお話をさせて頂きました。お家では守れているでしょうか？

- ①前髪が伸びたらお家の人に切ってもらうか、ピン止めで留めましょう。
- ②絵本を見るときは、本と顔を腕の長さくらい離しましょう。
- ③TVゲームや携帯ゲームは時間をきめて、続けて見ないようにしましょう。
- ④テレビをみるときは画面から(2m以上)離れて見ましょう。

一度視力が悪くなると、なかなか元には戻りません。お子さんの視力を守るために、ご自宅でもご指導をお願い致します。そのほか、本・テレビなどは明るいところでみる、目に異物が入る・かゆみがある時は、こすらず洗い流したり冷やしたりするなど注意して頂きたいと思えます。お子さんの視力を守るためにご指導をお願いします。

【園からのお願い】

※新型コロナウイルス予防対策について、改めてお願い申し上げます。北海道教育委員会より保護者様へ向けて、「感染しやすいデルタ株への対応」についての文書が発信され添付しています。文書にありますように**発熱の有無に関わらず、同居家族に症状が見られる場合は、症状がなくなるまで登園を控えて頂くようご協力下さい。**

※現在、コロナ関連の影響のためか病院で十分な検査が受けられず、病名が付かないケースが見受けられています。**病院の先生の診断に限らず、園の判断で咳症状がひどい場合など早退して頂いたり、登園を控えて頂く場合がありますので、ご理解の程宜しくお願い致します。**

～「感染しやすい」デルタ株への対応～

現在、道内においては、検査数の85%以上が感染しやすいデルタ株に置き換わり、感染の拡大が進んでいます（8月13日現在）。夏休み中の学校関係者の感染者数も、これまでの夏休みや冬休みと比べると多い状況です。

夏休みが明け、学校の教育活動が再開されますが、学校での感染拡大の防止等に向け、保護者の皆さまにも次の点について改めてご協力いただきますようお願いいたします。



お子様・ご家族に「症状がある」場合は、「自宅で休養」してください

【これまでの校内感染事例にみられた特徴(例)】

微熱があったが、薬を飲んで登校し続け、後に感染が判明し、校内で感染が拡大

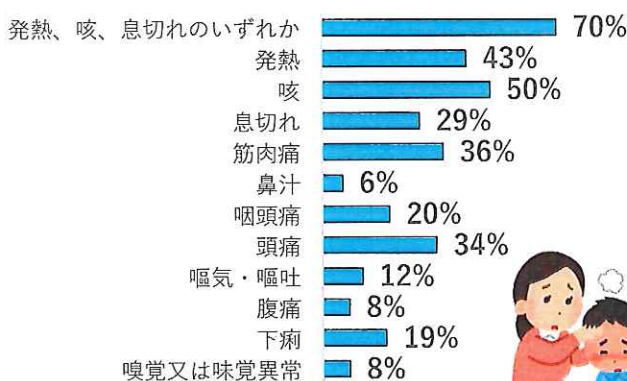


同居する家族にのどの痛みがあったが、症状が軽かったため、本人は登校し、後日家族全員の感染が判明し、校内で感染が拡大



発熱の有無に関わらず、お子様・ご家族に症状がみられる場合は、症状がなくなるまで、自宅で休養していただくようお願いいたします。

COVID-19の症状の頻度



「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き（第5.2版）」

PCR検査または抗原検査を受けることになったら、学校に連絡してください

学校での感染拡大を防止するためには、感染が判明した後の迅速な対応（臨時休業等）が必要になります。そのため、PCR検査または抗原検査を受けることになった場合、可能な限り速やかに学校に連絡していただくようお願いいたします。



SNSによる誹謗中傷等がなくなるよう、ご協力をお願いします

新型コロナウイルスの感染者が出た学校や地域では、感染者やその家族への偏見・差別や、SNSによる誹謗中傷等が生じてしまうことがあります。

非難や差別の根っこには、見えない・わからないウイルスへの「不安・恐怖」や「防衛本能」があると言われています。誰でも感染者になる可能性がありますし、誰の中にも不安や防衛本能はあります。

自分たちにできることは何か、ご家庭でもお子様とお話していただきますようお願いいたします。



「ウイルスが
広まったのは、
あいつのせいだ！」



「ウイルスの次にやってくるもの」（日本赤十字社）